

会 議 録

会議の名称	第 13 回（令和 8 年度第 1 回） 飯塚市協働のまちづくり推進委員会
開催日時	令和 8 年 8 月 24 日（月） 10：00～12：00
開催場所	飯塚市役所 本庁舎 1 階 多目的ホール
出席委員	貞清委員長、白瀧副委員長、渡邊委員、吉柳委員、野見山委員 田外委員、大谷委員、久家委員、竹原委員、渡辺委員
欠席委員	本川委員、高山委員、熊谷委員
事務局職員	【市民協働部】 小川部長 【まちづくり推進課】 太田課長、湊上課長補佐、栗田課長補佐 【市民活動支援課】 橋本課長、相川係長、安藤
会議内容	1 市民協働部長挨拶(市民協働部長挨拶) 2 委員長挨拶 3 議題 議題(1)地域活動について ①自治会加入促進の取り組み(事務局説明)・・・[資料 1] 1.自治会認知拡大 PR 活動 ・小学校出前授業、イベントでの PR の継続 2.加入促進の新しい施策(電子申請窓口・独自チラシ) ・訪問案内が困難化している現状を踏まえ、オンライン申請を導入済み。 ・自治会連合会と連携し、転入者向けの「自治会活動が一目で分かるチラシ」を作成予定。 3.自治会活動の事例集作成 ・優良事例を可視化し、課題解決のヒントとする。 これらを連携させ、PR→魅力発信→オンライン加入の好循環を目指し、ライフスタイルに合った加入促進を図っていく。 【主な意見・質疑】 ・自治会加入率低下について、人口減少・少子高齢化・価値観の変化・働き方の変化により、地域のつながりが希薄化している。 ・飯塚市の加入率は 45.25%（令和 8 年 5 月時点）と半数を下回る。 ・アパート、マンションで加入が進まない問題は、建設業者との連携不足が一つの要因でもある。 ・自治会加入への二次元コード案内を行っているが、実際の加入に結びつきにくい。 ・宅建協会等との協定事例を参考に連携強化を検討していきたい。 ・マンションの「加入はするが活動しない」などの事例があり、加入率は高く見えるが実態は伴わないケースがある。 ・若い世代の自治会離れ、核家族化、共働き増加、地域との関わりの希薄化

会議内容	や自治会の存在自体を知らない世代も増加していることが要因と考えられる。 ・好事例として高校生が町内会長を務める事例など、若者の参画の可能性もある。 ・防犯灯は誰が負担しているか分からない。飯塚市の防犯灯 12,500 本のうち約 9,800 本(78%)は自治会負担であり、自治会未加入者も恩恵を受けている構造である。自治会負担の可視化(ステッカー貼付等)の事例もある中で、共益費方式(北九州の例)などの代替案もある。 ・自治会の財源確保の工夫として、廃品回収で運営費を賄う事例では未加入者にも回収参加を促し、地域貢献を可視化する取り組みを進めている。 ・大学生との連携の可能性として、地域活動への若者参加を促すため、大学との意見交換が必要であり、福岡市の事例(学生と職員の協働企画)を参考に検討したい。 ②まちづくり協議会活動運営指針(第2版)・・・[資料2] 1. 指針の概要 ・まちづくり協議会の役割、活動内容、運営方針を整理していく。 ・地域課題を把握し、多様な主体(自治会・NPO・事業者等)と連携した位置づけを進める ・今後5年間の方向性を示し、代表者会議の意見を反映。 (映像紹介)かいたちょうちんまつり 【主な意見・質疑】 ・第1版からの改善点を評価。 ・自治会加入率低下を踏まえ、協議会が地域コミュニティの基盤となる可能性があると感じた。 ・紙媒体の配布方法、ホームページ掲載の利便性について意見あり。 ・地域の多様な団体をどう巻き込むか、協働の枠組みの拡大を期待。 ③事例紹介: 潁田地区「かいたちょうちんまつり」 ・10年ぶりの開催で、自治会・各種団体・企業・病院・ボランティアが協力して実施できたまつりとなった。 ・協議会のInstagramで準備過程を発信し、気運を高めた。 ・子ども、保護者、学校関係者の参加が多く、地域のつながりを再確認することができた。 ・映像は潁田地区育ちの福岡市在住の方が、地域貢献という形で作成してくれた。 議題(2)市民活動について ①令和7年度の協働事業実績
-------------	---

	・NPO・ボランティア団体との協働事業を一覧化。 ・図書館・生涯学習館の事業が多数。 ・男女共同参画、子育て支援、防災運動会など幅広い分野の記載となっている。 ②令和８年度 協働のまちづくり応援補助金(採択４件) 1.いっぴか共育委員会～よりそいの木～ 不登校・学校への行きづらさを抱える子どもと家族を支援。 2.豆たんクラブ(カードゲーム作成) 高齢者施設等で活用できるコミュニケーションカードを改良。 3.Y-LABO2026 大学生と地域・企業をつなぐ交流事業。若者の地域参画を促進。 4.カレー食堂の会 地域交流を目的に、庄内交流センターでの実施へ拡大。 【主な意見・質疑】 ・補助金について補助率４分の３ではあるが、「自己負担４分の１」が事業実施することに関し、団体にとって重いとの声。 ・活動継続のための財源確保(協賛金・参加費等)の工夫が必要。 ・市民活動団体の全体把握が難しいため、登録制度の活用や情報整理を求める意見。 事務局より、「飯塚市協働のまちづくり応援補助金事業」「市民交流プラザの移転と運用開始」について説明を行う。 議題(3)その他 特になし。
会議資料	第13回（令和８年度第１回）推進委員会 次第 資料１ 自治会の活動に関する報告 資料２ まちづくり協議会活動・運営指針 資料３ かいたちょうちんまつりチラシ 資料４ 令和７年度 NPO・ボランティア団体と飯塚市の協働事業実績 資料５ 令和７年度 NPO・ボランティア団体と飯塚市の協働事業実績一覧 資料６ 令和８年度協働のまちづくり応援補助金 採択事業一覧 資料７ 令和８年度協働のまちづくり応援補助金 「チャレンジing 事業」手引き
公開・非公開の別	① 公開 2 一部公開 3 非公開 (傍聴者１人)
その他	